

活動報告書 2025

教育の力で、環境問題を解決する。

公益社団法人 日本環境教育フォーラム

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-38-5 日能研ビル1階
TEL : 03-5834-2897 / E-mail : info@jeef.or.jp
<https://www.jeef.or.jp/>



〈Web〉



〈Facebook〉



〈X〉



〈Instagram〉

デザイン・東村ほのか





教育の力で、環境問題を解決する。

ご挨拶

日本環境教育フォーラム(JEEF)へのご支援・ご協力をいただきありがとうございます。
JEEFの2024年度の活動を取りまとめた報告書をお届けいたします。
ぜひ一読いただき、JEEFへのご理解をさらに深めていただければ幸いです。

理事長挨拶



理事長 阿部 治

2024年度も多様なステークホルダーと共に、国内外における環境教育の推進に取り組みました。

なかでも新規事業であるESD活動支援センターは、日本政府とNGOが共同提案した国連ESDの10年(2005~2014)の終了に際して、国内のESDのさらなる推進を目指して構想されたESD推進ネットワークの要として設立されたものです。JEEFは国連ESDの10年の推進に主要NGOとして初期から関わり、これまでもESDの視点に立った環境教育の推進に取り組んできました。同センターの運営受託を機に、環境教育と他の持続可能な社会につながる多様な学びをつなぐ役割をより一層果たしていきます。

また、2001年にJEEFに設置され、探求学習プログラムGEMSの普及を担ってきたジャパンGEMSセンターは、ELMSセンターに名称を変更して、新たな探究的な学びのセンターとして再スタートしました。ELMはニレ(楡)を意味する英単語です。ニレの木のように様々なものに活用することができる学びを育む拠点となることを目指します。

残念ながら、地球沸騰の時代といわれるほどの気候危機や生物多様性の損失、環境汚染など、環境問題は悪化の一途をたどっています。またトランプ政権の再登場やウクライナ戦争、ガザ侵攻など、持続可能な未来に逆行する動きはますます広がっています。このような時代であるからこそ、JEEFは「誰ひとり取り残さない環境教育・自然体験」をはじめとする多様性や公正性、包摂性を大切にした取り組みをこれまで以上に推進していきます。

一方、12月に開催した清里ミーティングには10代から20代の多くの若者が参加してくれました。未来の主役である若者の参加は希望に他なりません。JEEFは若者による環境活動や社会参画をより一層支援していきます。

皆さまのさらなるご支援をお願いします。

VISION ー実現したい社会

かけがえのないこの地球で、
次の世代も心豊かに、笑顔でくらしていけるように、
多様なパートナーと協働しながら持続可能な社会の実現を目指します。

MISSION ーわたしたちが取り組むこと

地球環境をはじめ、複雑に絡み合う様々な問題の解決に向けて、
表面的な知識を与えるのではなく、
『体験と対話を重視した環境教育』によって
「自ら課題を見つけ、学び、考えて行動できる人材」を育成します。

体験

- 実際にやることで、
理屈だけでなく実感をもって
学ぶことができる
- 試行錯誤をくり返す中で、
柔軟な課題解決力が育つ
- 他の参加者と協働しながら、
自分たちで学びを
つくっていく力が育つ

対話

- 自然と対話することで、
より自然に対して愛着を感じる
- 他の参加者の多様な考え方に
ふれることで、
自身の視野が広がる
- ファシリテーター／インター
プリターが学びの案内人として、
学びを深める

JEEFの取り組み

これらの5つの事業を通して『体験と対話を重視した環境教育』に取り組み、持続可能な社会の担い手を育てます。

国内事業

多様なパートナーと共に、
「自然から / 体験から学ぶ環境教育」に取り組みます。

森・里・川・海での自然体験活動、学びを深めるワークショップ、出前授業、研修、講演、オンラインプログラムなど、幼児からシニアまで幅広い世代に学びと体験の機会を提供しています。

PICK UP!

環境教育で未来をつくる！ボーダレスなミーティング
『清里ミーティング 2024』

年に一度、全国から環境教育者が集い、持続可能な社会づくりに貢献できる人材の育成について学びあう2泊3日の対話型イベントです。
2024年度は「共感されるストーリーのつくりかた」をテーマに、全国から約100名が集いました。



P.9~

海外事業

地域住民の生計向上と環境教育の両立により、
人と自然の共生を目指します。

インドネシアやバングラデシュにおける住民主体の地域づくり、環境保全、海外からの招へい研修プログラム、環境教育を学び合う国際シンポジウムの運営などに取り組んでいます。

PICK UP!

インドネシアにおける生物多様性保全やマングローブ林の再生
『インドネシアでの環境教育事業』

国立公園での生態調査と環境教育、マングローブ林の再生、学生のインターンシップ受入れなど、分野の異なる様々な環境保全活動を実施しています。どの活動においても人材育成に注力し、地域住民との協働や学生ネットワークの構築など、人と自然との共生を目指しています。



P.11~

ELMSセンター

「科学者になる」探究プログラムを通して、
地球環境について自ら学び、考える力と姿勢を養います。

詳しくはこちら



“正解が1つでない問い”に対して、子どもたちが想像力と創造力を思い切り使って、実験をデザインし、話し合い、結論を導き出すプログラムで、未知の世界を探究するおもしろさに出会います。

PICK UP!

誰もが科学者・数学者！持続可能な社会を担う人づくり
『探究的な学び普及・研究事業』

親子講座、出張授業、オンラインワークショップなど、さまざまな形で全国の子どもたちに学びの場を提供するほか、探究的な学びのつくり方を伝える指導者養成講座など、子どもたちにゆたかな学びを届ける人材の育成も行っています。



P.13~

寄付金活用事業

ご支援いただいた寄付金や会費を活用して
「誰ひとり取り残さない環境教育・自然体験」を提供します。

近年の社会変化による体験格差への取り組みとして、寄付金を活用し、身体的・経済的・地域的などの理由で環境教育・自然体験プログラムの参加が少ない方々へ、機会を提供しています。

PICK UP!

たくさんの“はじめて”があるキャンプ！
『ひとり親世帯向け宿泊型自然体験プログラム』

ひとり親世帯の小学生または親子を対象に、1泊2日のプログラムを実施しています。子どもにとっては自然の中で過ごす“はじめて”にあふれた時間に、親にとっては自分も自然に癒されながら、非日常だからこそ気づく子どもの成長を感じる時間になっています。



P.15~



ESD 活動支援センター

日本全国のESD※を支援していくために、民間団体との連携事業として文部科学省及び環境省によって2016年に設置された官民協働のプラットフォームです。2024年度より運営事務局を受託しています。

HPはこちら



※ESD=Education for Sustainable Development=持続可能な開発のための教育

詳細は別冊の活動レポートをご覧ください

事業一覧

	事業名	協働パートナー	主な対象者									
			幼児	小学生	中高生	大学生	大人	シニア	学校教員	企業社員	NPO/ NGO職員	その他
国内事業	清里ミーティング	自主事業				✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	東京ネイチャーアカデミー	自主事業					✓	✓				
	誰ひとり取り残さない環境教育・自然体験	自主事業	✓	✓	✓	✓	✓	✓				
	市民のための環境公開講座	SOMPO ホールディングス、SOMPO 環境財団					✓	✓				
	100 年後に生きる子どもたちに感謝される森づくり	メットライフ生命、メットライフ財団	✓	✓	✓	✓	✓			✓		
	私の自然観察路コンクール	富士フィルム・グリーンファンド、三井住友信託銀行		✓								
	P LOVE GREEN	プロントコーポレーション								✓		
	次世代ネイチャースクール	(公財) 上廣倫理財団		✓								
	王子の森・自然学校	王子ホールディングス、ホールアース自然学校		✓								
	東京マラソン 2025 チャリティ	東京マラソン財団					✓					
	日本環境教育学会年次大会運営	日本環境教育学会				✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	ESD 活動支援センター運営業務	環境省	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	国立公園満喫プロジェクト人材育成支援業務	環境省、日本エコツーリズム協会					✓					
	教職員等環境教育・学習推進リーダー養成研修業務	環境省					✓		✓	✓	✓	
	環境教育・ESD 実践動画 100 選運営業務	環境省					✓		✓	✓	✓	
	インタープリテーション全体計画の普及に向けた情報収集・検討業務	環境省										✓
	日光国立公園インタープリテーション全体計画策定業務	環境省					✓			✓	✓	✓
	自然公園等利用者数等集計業務	環境省										✓
海外事業	大学生グリーンミーティング	環境再生保全機構全国ユース環境ネットワーク事務局				✓						
	ジャワ島西部国立公園における生態調査と環境教育プロジェクト	経団連自然保護基金		✓	✓	✓	✓	✓				
	NGO ラーニング・インターンシップ・プログラム in インドネシア	SOMPO 環境財団				✓						
	ジャカルタ湾岸マングローブ林再生事業	ダイフク、緑の募金、経団連自然保護基金					✓					
	JAL スカラシッププログラム	JAL 財団				✓						
	SDGs ツアー in カンボジア	近畿日本ツーリスト、東京立正高等学校			✓							
	日中韓環境教育ネットワーク (TEEN)	環境省										✓
	日中韓三カ国環境大臣会合 (TEMM) ユースフォーラム	環境省、海外環境協力センター			✓	✓						
	バングラデシュ・ジョশョール県の生計向上プロジェクト	外務省、BEDS		✓	✓	✓	✓	✓				
	探究的な学びの普及・研究	自主事業	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
ELMSセンター	探究的な学びの指導者養成	自主事業				✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	中学校理科出前授業	明電舎			✓					✓		
	「海とさかな」自由研究・作品コンクール	朝日新聞、朝日学生新聞、ニッスイ		✓								
	おそうじ科学実験＆おやこネイチャー楽校	サニクリーンアカデミー		✓			✓					
	海洋プラスチックのない世界を目指した環境教育プログラム	ジョンソン株式会社 (SC ジョンソン)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	

国内事業

多様なパートナーと共に、「自然から / 体験から学ぶ環境教育」に取り組みます。

PICK UP!

環境教育で未来をつくる！ボーダレスなミーティング

■自主事業 『清里ミーティング 2024』



38回目
の開催

98名
が参加

ワークショップ
14本

ポスター発表
25組

「清里ミーティング」は、年に一度、山梨県清里に全国から環境教育者が集い、持続可能な社会づくりに貢献できる人材の育成について学びあう2泊3日の対話型イベントです。

2024年度のテーマは「共感されるストーリーのつくりかた」。日本の自然体験活動は、この30年で全国的に実践されるようになりました。しかし誰もが当たり前に参加するものになるためには、さらに多くの人に自然体験活動の意義が伝わる言葉(ストーリー)が必要です。目の前で起こる「ストーリー」をどう伝え、仲間を増やしていくのか。また、これから活動に参加する人・実践者になっていく人たちの背中を押し、さらに自然体験活動を広げていくために何が必要なのか、ヒントを探りました。

会期中は主催者・参加者企画のワークショッ

プやポスター発表、交流や出会いを促すコーナーやブース、ショップ、オプションツアー、参加者がゆっくり考えを消化する時間などを取り入れながら、世代も業種も超えた参加者同士が学びあい、議論が行われた熱気あふれる3日間となりました。

(現地開催事務局：キープ協会)



1993年から続く、環境とサステナブルの市民向け講座

9508名
が参加

全10回
開催

■SOMPOホールディングス、SOMPO環境財団 『市民のための環境公開講座 2024』



「認識から行動へ」の考え方を大切にした講座です。企業とNGOのパートナーシップ事業の先駆けとして始まり、2024年度は「Re-Think サステナビリティ〜" ゆたかな " 暮らしの9つのヒント〜」をテーマとして7月〜11月にオンラインで全9回開催。各講師による気候変動・災害・生物多様性・食・資源・ライフスタイルなどさまざまな視点の話から、市民の皆さまと共にそれぞれが自分にできるアクションを考えました。

食べて応援！日本全国の森づくりプロジェクトが始動

NEW

■プロントコーポレーション 『P LOVE GREEN 〜未来につなぐ森づくりプロジェクト〜』



飲食業態をフランチャイズ展開するプロントコーポレーションでは、産地や製法にこだわった素材を使用した P LOVE GREEN メニューの売上の一部を森林循環を守るための緑化活動へ活用しています。2024年より寄付先団体に JEEF を選定いただき、社員の皆様と一緒に森づくりを進めるプロジェクトが始動しました。第1回の活動では社長を含む19名の方々にご参加いただき、東京都町田市の三輪緑地にて下草刈りや整理伐等の活動を行いました。

全国の小学生が生きものや自然の魅力を学ぶオンライン講座＆自然体験

NEW

■(公財)上廣倫理財団〈特別協力〉 『次世代ネイチャースクール』



生きものの専門家による講義や自然体験を通して、子どもたちが好奇心を育み、自ら疑問を見つけ、地球の未来について考えるきっかけとなる学びの場がスタートしました。

サンゴや虫をテーマにした全2回のオンラインプログラムと、千葉県・南房総での2泊3日の自然体験を実施しました。里山や無人島を訪問して山と海とのつながりを学び、生物多様性と私たちの暮らしとの関わりについて考える時間を過ごしました。

SDGs 達成に向けた環境教育・ESD 実践講座

620名
が受講

全23回
開催

■環境省〈主催〉、文部科学省〈協力〉 『教職員等環境教育・学習推進リーダー養成研修業務』



学校や地域で質の高い環境教育・ESD を実践・推進するリーダー人材を育成することを目的とした研修事業です。

カリキュラムをデザインする実践力を養うコースでは、基礎編のオンライン型研修、実践編の対面型研修、派遣希望先のニーズに対応する講師派遣型研修を行いました。環境教育プログラムの実践力を向上を目指すコースでは、「体験の機会のある場」に認定された事業者及び国立公園・国定公園で体験型研修を実施しました。

海外事業

地域住民の生計向上と環境教育の両立により、人と自然の共生を目指します。

PICK UP!

インドネシアにおける生物多様性保全やマングローブ林の再生

■『インドネシアでの環境教育事業』



インドネシアに現地事務所を置き、人と自然との共生を目指して、地域住民と協働しながら様々なフィールドで活動しています。

■ジャワ島西部国立公園でのジャワギボンの生態調査と環境教育プロジェクト

2024年度から新たに始まった、テナガザルの保全をベースにしたエコツーリズム事業。地域住民が専門家のサポートを得ながら、テナガザルのモニタリング調査を実施しています。さらに、ビジターセンターの建設を計画。はじめの一步として、地域住民4名による日本の国立公園や自然ふれあい施設での研修を実施しました。



■ジャカルタ湾岸マングローブ林再生

10年以上継続しているマングローブの植林活動は、これまでの経団連自然保護基金、緑の募金による支援に加え、2024年度より株式会社ダイフク様からの寄付を受けて植林地域が拡大しています。

■NGOラーニング・インターンシップ

スタートから6年目を迎えたSOMPO環境財団主催のNGOラーニング・インターンシップ事業では約200名の応募から24名の大学生が選ばれ、ジャカルタ首都圏の環境NGOでの8ヶ月間のインターン活動が実現しています。



組合メンバー主体で進む、バングラデシュでの生計向上支援

収入が+5%で目標達成

135世帯を支援

10校で出前授業

■外務省、Bangladesh Environment and Development Society (BEDS)

『バングラデシュ・ジョジョール県の零細ヤシ砂糖生産者と花卉農家の6次産業化を通じた生計向上プロジェクト』



バングラデシュ・ジョジョール県にて生産者協同組合を結成し、農産物の6次産業化や観光の促進を通じた貧困削減と環境教育の推進を行っています。

2年次は、完成した協同組合事務所及び加工場において、衛生的なヤシ砂糖の生産が始まりました。また、花と手工芸品の販売拠点の拡大、アグロツーリズム農園への来場者の増加、子どもたちによる自主的な学校菜園の運営など、一歩ずつ成果を積み重ねています。

持続可能な未来に向けて、アジアの大学生が日本で学ぶSDGs

19地域から参加

全22日間開催

■JAL 財団 『JAL スカラシッププログラム』



アジア・オセアニア地域の大学生を日本へ招待し、研修や文化交流を行うプログラム。1975年から実施され、JEEFは2022年度から企画・運営に関わっています。2024年度は、「SDGs～持続可能な未来へ～」をテーマに福岡と東京でフィールドワークや施設見学を実施。海外学生24名と日本人学生11名が持続可能な未来に向けて共に学び、グループでアクションプランを企画しました。次世代を担う若者が国境を越えて築いたネットワークのこれからの発展に期待が高まります。

詳しくはこちら



京都で開催！脱炭素社会に向けた日中韓の学び合い

■環境省 『日中韓環境教育ネットワーク (TEEN)』



TEENは日中韓の環境教育実践者・研究者による学び合いや情報交換を通して、市民レベルでの環境共同体意識の向上を図ることを目的として毎年実施しています。

25回目の開催となった2024年度は、10月26日～10月29日に日本主催により京都府で本会合が開催され、脱炭素社会をテーマとしたシンポジウム、三カ国の参加者による事例報告、エクスカーション、ワークショップなどが実施されました。

ELMSセンター

「科学者になる」探究プログラムを通して、地球環境について自ら学び、考える力と姿勢を養います。

PICK UP!

誰もが科学者・数学者！持続可能な社会を担う人づくり

■自主事業 『探究的な学び普及・研究事業』



59名の
指導者が
誕生

50種の
プログラム
を提供

ELMSセンターは、考えることが楽しくなるような科学と数学の探究的な学びを通して、自ら学ぶ姿勢をもった「自立した学習者」を育てることを目的に、2024年4月にJEEF内に設立されました。

ELMSのプログラムでは、子どもたちが「科学者のように」をテーマに、ロールプレイ、ゲーム、クラフトなど、実際にからだを使った、楽しさいっぱいの探究に出会います。実験をデザインし、話し合い、結論を導き出すなど、科学・数学のエッセンスを活動の中で大切にしています。

親子講座、出張授業、オンラインワークショップなど、さまざまな形で全国の子どもたちに学びの場を提供するほか、探究的な学びのつくり方を伝える指導者養成講座など、子ども

たちにゆたかな学びを届ける人材の育成も行っています。

環境問題をはじめとした社会課題の解決のため、一般の人々が科学者のマインドを持つ「市民科学」の重要性が増してきている現在、科学と数学の探究的な学びを提供することで、持続可能な社会の実現を目指しています。



市民のみなさんと、海の環境問題にアクション！

3013名
が参加

12校で
出前授業

■ジョンソン株式会社（SC ジョンソン）『海洋プラスチックのない世界を目指した環境教育プログラム』



ジョンソン株式会社の本社がある横浜市中区で、海洋プラスチック問題をテーマにした環境教育を展開しています。

小学校での出張授業、川や街の清掃、海の環境問題を学ぶ小中学生向け講座、プラスチックを素材にしたアップサイクル体験などを、多様なパートナーと協働しながら提供しました。心に残る体験を通して、海洋プラスチック問題への理解を深め、環境問題の解決に向けてアクションする人を増やす活動を続けてまいります。

「電気って面白い！」科学的思考力を育む体験学習

450名の
生徒が体験

43名の
社員が参加

■明電舎 『中学校理科出前授業』



電気技術・電力インフラ事業を展開する明電舎と共に、拠点がある地域の中学校に出張授業を提供しています。

オリジナルの電気回路を作る探究学習プログラムを開発。社員研修を行い、社員の方が講師となって授業を行いました。生徒からは「楽しく電気の仕組みを学べた」と感想をいただきました。

地域の企業と中学生を繋ぎ、考えることを楽しむ体験を通して、生徒たちが電気に興味を持つ機会をつくっています。

海やさかなの不思議にせまる、オンライン出張授業

5107名
が参加

51校
が参加

■朝日新聞、朝日学生新聞、ニッスイ 『「海とさかな」自由研究・作品コンクール』



「海とさかな」自由研究・作品コンクールの一環で、海やさかなの不思議を学ぶオンライン出張授業を実施しています。全国の小学校と繋ぎ、教室で体験できる活動も交えた、オンラインでありながらも体験型の授業です。

2024年度は「サーモン養殖」「海の色」「海の生きもののたまご」の3つをテーマとし、海の豊かさや海洋生物の生態、魚食文化について楽しみながら学ぶ時間を、小学生に届けました。

寄付金活用事業

ご支援いただいた寄付金や会費を活用して「誰ひとり取り残さない環境教育・自然体験」を提供します。

PICK UP!

たくさんの“はじめて”があるキャンプ！

■自主事業 『ひとり親世帯向け宿泊型自然体験プログラム』



全国 5カ所
で実施

51名の
親子が参加

全国の自然学校等と協働し、子どもたちの健全な成長を支える「自然体験活動」を推進しています。2024年度はひとり親世帯の小学生または親子を対象に、1泊2日のプログラムを北海道、東京、山梨、千葉、大阪で実施しました。

厚生労働省の令和3年度調査によると、日本の約134万世帯がひとり親家庭で、経済的・時間的理由などによって、子どもの体験格差が生じていることが懸念されています。このプログラムの参加者も、そういった理由で今まで自然体験のプログラムに参加した経験があまりなかったという家庭がほとんどです。

「はじめて本物の虹を見た」「初めて親と離れて寝た」「ママとキャンプしたことがないから一緒に行きたかった」と、たくさんの“はじめて”を経験できたという声をいただきました。

また、「子どもがこんなにいろいろ出来るようになっていたなんて、知らなかった」と非日常だから見える一面を、親と子がそれぞれ知って驚く様子もありました。

これを機会に今後も、自然に興味を持っていただけたら嬉しいです。

(協力団体：アースマンシップ、大阪体育大学、キープ協会、大雪山自然学校、千葉自然学校)



子どもたちに楽しい探究のチャンスを！

■自主事業 『探究ワークショップキャラバン』



全国 4カ所
で実施

■『発達凸凹自然体験教室 なないろの大冒険』



70名
が参加

全国各地にוותて無料の探究ワークショップを提供し、学ぶことの楽しさや、外の世界に興味をもつきっかけをつくるプロジェクトです。

岡山で、病気と闘う子どもたちやそのきょうだいを対象に、“科学者になろう！”をテーマにしたワークショップを、対面・オンラインの両方で開催しました。子どもたちの学びへの前向きな意欲と、繋がりの方の大切さを感じられるひとときとなりました。

(協力団体：ポケットサポート)

なないろの大冒険は、発達障がい個性をとらえ、その児童と保護者が雄大な富士山麓での自然体験を通じ、相互に新たな一面に気づく機会になることを目指し、立ち上げられた活動です。

自然のなかで、子どもたち自身が肌で感じ、考え、行動に移すことで自分自身を肯定し、自宅や学校での生活がより快適に過ごせるようになることを願い活動を続けています。2024 年度は日帰りの親子向け講座を 4 回開催しました。

(協力団体：ホールアース自然学校)

ストレス社会で日々頑張る大人のための癒しの機会

39名
が参加



普段は仕事や家庭で忙しい大人こそ、自然とふれあつてのんびりしたひと時を過ごし、日頃の疲れを癒してほしい！林野庁によると、森林浴によるリラクゼーション効果が科学的検証により報告されています。

東京都内で日帰りプログラムを 3 回実施。自然観察で日頃通り過ぎてしまう季節の移り変わりに気づき、焚き火でゆっくりコーヒーを淹れて味わう時間を過ごしながら語らいました。ココロとカラダのエネルギーをチャージして、明日からの活力を得られた時間となりました。

(協力団体：NACS-J 自然観察指導員 東京連絡会、スキルノート、国際自然大学校)

温かいご支援をいただきありがとうございました。
それぞれの活動の詳細は、報告レポートをご覧ください。▶



会員制度

JEEFの理念に賛同いただき、共に学び、考え、行動していく仲間を増やしていくことを目指します。会員の皆さまの力を持ち寄り、発揮していただける会員コミュニティをつくってまいります。自団体だけでは難しい複雑な課題の解決方針・方策を一緒に考えていきましょう。

会員数		※2025年4月1日現在
特別会員	9名	
正会員（団体／個人）	9団体／51名	
普通会員（団体／個人／学生）	36団体／345名／11名	
賛助会員	9団体 ※50音順 カローラ株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社小学館、SOMPOホールディングス株式会社、瀧本株式会社、トヨタ自動車株式会社、株式会社日能研、公益財団法人ニッセイ緑の財団	

普通会員

環境教育について知りたい方、JEEFの活動を応援して下さる方はぜひ会員としてJEEFの活動にご参加ください。

団体 20,000円／年
(入会金 10,000円)
個人 6,000円／年
(入会金なし)
学生 3,000円／年
(入会金なし)

正会員

正会員は公益社団法人であるJEEFの法律上の社員です。年1回以上開催する社員総会において1票の議決権を持ち、JEEFの運営に直接関わります。

団体 80,000円／年
(入会金 20,000円)
個人 20,000円／年
(入会金 10,000円)

賛助会員

JEEFの活動を資金面でサポートしていただく会員です。
一口 100,000円／年

※ 正会員と賛助会員は年度会費です。
(いつご入会されても4月～翌3月が会費期限になります。)
※ 団体普通会員（2万円）と賛助会員（一口10万円）は複数口の加入が可能です。
※ 普通会員の会費（個人のみ）は寄付金扱いとなり、税制上の優遇措置の対象となります。

【会員特典】

●機関誌「地球のこども」（年2回）、活動報告書（年1回）、会員限定メルマガ（月1回）、イベントへの参加ご優待（割引など）、メルマガ「身近メール」への情報掲載（月1回）を致します。

●新たにJEEFの会員になっていただいた方には、JEEFオリジナル紙ホルダーとJEEFピンバッジを差し上げます。



会員・寄付についての詳細は <https://jeef.or.jp/joinus/> をご覧ください。



寄付制度

皆さまからの温かいご支援を活用して、“誰ひとり取り残さない環境教育・自然体験”をテーマに、日常で不安やストレスを抱えている人たちが“ほっとできる”ような自然体験や環境教育の場をつくっていきます。

いただいた寄付の活用方法

活用例

- ・ひとり親世帯、生活困窮世帯の子どもたち、障がいをもつ子どもたちも参加できる自然体験
- ・重い病気と闘う子どもたちに楽しい学びの機会を提供
- ・ストレス社会で頑張る大人のための癒しの機会を提供

※詳細はP.15～16をご確認ください。

寄付の方法



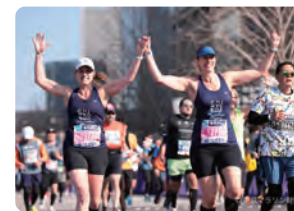
任意の金額を1回寄付

お好きなタイミングで、寄付いただけます。



マンスリー寄付

毎月、任意の金額を寄付いただけます。



スポーツチャリティで寄付

JEEFは東京マラソン2025チャリティの寄付先団体です。チャリティランナーや寄付によるご支援等で参加いただけます。



買い物で寄付

モンベルクラブ「JEEFサポートカード」、ZERO PC「想うプロジェクト」など、買い物することで購入金額の一部がJEEFへの寄付となります。



Giving December

JEEFは寄付月間（Giving December）の理念に賛同し、パートナーとして参加しています。

【寄付特典】

●寄付をくださった方には、JEEFオリジナルグッズをプレゼントいたします。

寄付に関する詳細は <https://www.jeef.or.jp/joinus/#tab02> をご覧ください。



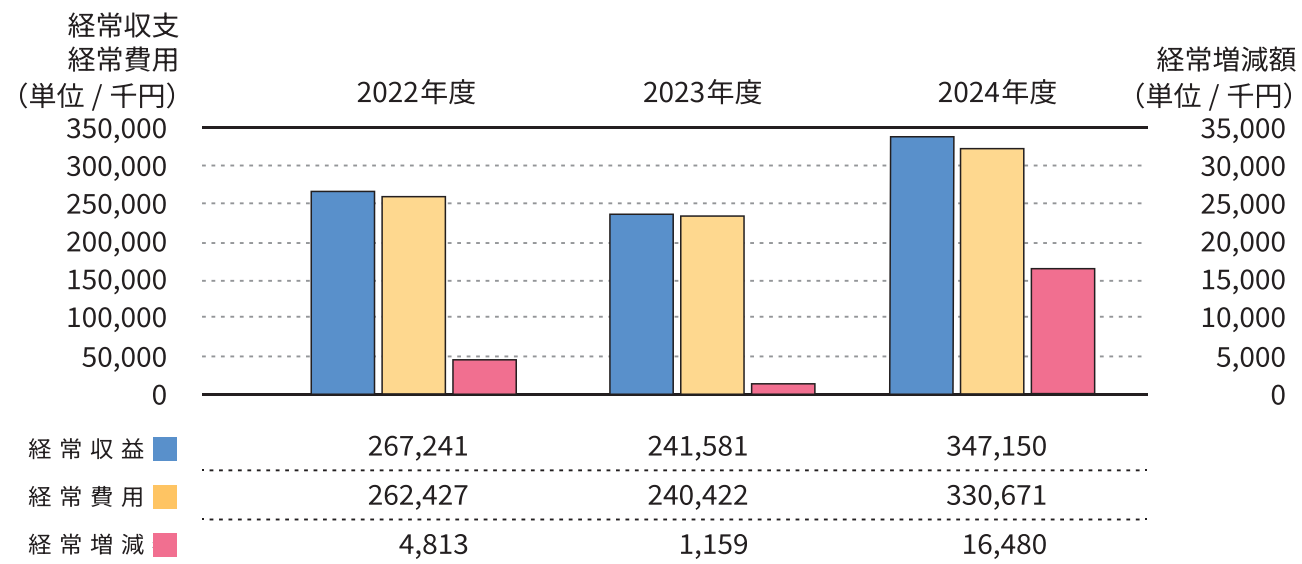
会計報告

総評

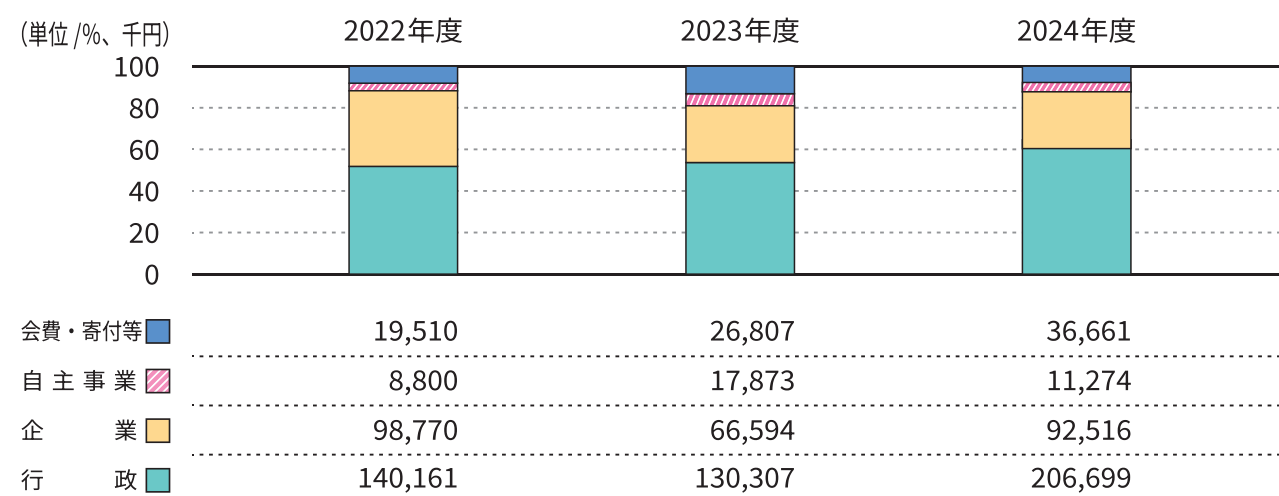
2024年度は国内及び海外ともに大型の新規事業を開始することができ、2023年度に続き黒字を達成することができました。また、事業拡大に伴い、新規職員を採用することができ、事務局体制の強化にもつながっています。地球とわたしのウェルビーイング（Well-Bing）の実現に向けて、JEEF・ELMSセンター、ESD活動支援センターを軸に行政や企業、環境教育に携わる個人・団体など多様なパートナーと協働し、人々や社会の行動変容につながる環境教育・ESDを2025年度も展開してまいります。

事務局長 加藤 超大

経常収支



経常収益の内訳



役員一覧

会 長	岡 島 成 行	特定非営利活動法人自然体験活動推進協議会 会長
理 事 長	阿 部 治	立教大学 名誉教授
専務理事	高 野 孝 子	特定非営利活動法人 ECOPLUS 代表理事 早稲田大学文学学術院 教授
理 事	安 西 英 明	公益財団法人日本野鳥の会 参与
	菅 山 明 美	株式会社ハッピーエンジン 代表取締役
	鈴 木 和 信	日本大学国際関係学部 教授
	高 木 幹 夫	株式会社日能研 代表取締役会長
	田 中 泰	特定非営利活動法人白川郷自然共生フォーラム 理事長
	長 沢 裕	タレント
	西 村 仁 志	広島修道大学人間環境学部 教授
	藤 田 香	東北大学グリーン未来創造機構／大学院生命科学研究科 教授
	古 屋 悠	株式会社イキモノ 代表取締役
	森 高 一	特定非営利活動法人日本エコツーリズムセンター 共同代表理事 株式会社森企画 代表取締役
	山 田 健	サントリーホールディングス株式会社 サステナビリティ経営推進本部 シニアアドバイザー
監 事	松 田 勉	松田勉税理士事務所 税理士
	渡 邊 綱 男	一般財団法人自然環境研究センター 副理事長

JEEFのあゆみ

このページでは、多くの支援者やステークホルダーの皆さまと一緒に歩んできたJEEFの足跡を抜粋し、ご紹介いたします。

これからも引き続き、皆さまと一緒に未来に向かって歩んでまいります。

- 1987 ● 第1回清里フォーラム開催（現：清里ミーティング）
- 1992 ● 日本環境教育フォーラム設立 ……

「日本型環境教育の提案」の出版により「清里環境教育フォーラム実行委員会」は目的を達成し、解散する予定でした。しかし、フォーラム参加者のネットワークをここで途切らせるのはもったいない、活動をぜひ続けようという声があがり、任意団体として JEEF が発足しました。



- 「日本型環境教育の提案」出版
- 1993 ● 機関誌「地球のこども」発刊 ……
- 「市民のための環境公開講座」開始 ……
- 「アメリカン・ネイチャー・ライブラリー」発刊



- 1994 ● 「インタープリテーション入門」出版

- 1996 ● シンポジウム「自然学校宣言」開催

- 1997 ● 環境庁所管「社団法人」へ移行



- 2000 ● 「自然学校指導者養成講座」開始
- 「日中韓環境教育ネットワーク（TEEN）」開始
- 「日本型環境教育の提案」改訂新版出版

- 2001 ● ジャパン GEMS センター設置

- 2002 ● インドネシア事務所設置 ……



- 2004 ● JEEF 憲章制定

- 2005 ● 愛・地球博「森の自然学校・里の自然学校」開校 ……



- 2008 ● 「日本型環境教育の知恵」出版
- 2010 ● 内閣府所管「公益社団法人」へ移行
- 2013 ● 「東京シニア自然大学」開校 ……



- バングラデシュでの事業開始 ……

- 2017 ● 設立 25 周年記念シンポジウム「環境教育の未来を考える」開催



- 経団連自然保護基金 25 周年記念事業「SATO YAMA UMI プロジェクト」

- 2018 ● 清里ミーティングが「環境大臣賞」を受賞 ……



- 2020 ● 「新型コロナウイルスによる自然学校等への影響調査」を実施
- 「第 8 回エクセレント NPO 大賞」の「組織力賞」を受賞

- 2022 ● 設立 30 周年
- 「東京シニア自然大学」が「東京ネイチャースクール」に改称

- 2024 ● ELMS センター設置 ……

ジャパンGEMSセンターが名称をELMSセンターへと変更し、新たな探究的な学びのセンターとして再スタートしました。

詳しくはこちら



- ESD 活動支援センターの運営事業が開始 ……

日本全国のESDを支援していくために、民間団体との連携事業として文部科学省及び環境省によって2016年に設置された官民協働のプラットフォームです。2024年度より受託しています。

詳しくはこちら



ESD 活動支援センター
Education for Sustainable Development